

2016 年度 事業計画

ノートルダム清心女子大学

◆研究・教育の重点目標並びに達成のための事業計画

○建学の精神および教育方針の明確化

本学の社会的評価は建学の精神に基づく教育の成果であるので、教職員に建学の精神が浸透するように、また同時に学生に建学の精神が深まるように努める。

○生涯学習拠点の充実と社会への貢献

清心フェリーチェの事業展開を充実させ、本学卒業生や地域の人々に広く教育貢献をはたすとともに、在学生の正課外学習の場としての充実もはかる。また、地域の諸機関と連携し、本学のもてる力を地域貢献のために活かす。

○学生確保の強化と広報活動の重点化

質の高い学生の獲得のため、教職員の協力を得て積極的で有効な広報活動を行う。清心フェリーチェの開講講座と高大連携講座との有機的連携に努める。情報公開を積極的に行って、本学の教育理念と特色を社会に周知することに努める。

○学生のキャンパスライフの支援

学生の自学・自習の場としての図書館ラーニング・コモンズを整備し稼働させるとともに、図書館の配架計画を充実させる。2015年度の文部科学省私立大学等改革総合支援事業タイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」に関して、CALL教室のマルチメディア語学教育システムを活用して、学生の自主的な語学学習の支援を継続する。本学附属図書館、ENGLISH LOUNGE、学生合同研究室、生涯学習センター等において、学生の英語、フランス語、ドイツ語、中国語の学習活動を積極的に支援する。学生の就職活動期間の変更に対応し、就職活動支援を強化する。

○自己点検・自己評価の進展

大学基準協会による2016年度の認証評価・実地調査に向けて、十分な準備を行う。

○地域社会、産業界との連携の強化

文部科学省の私立大学等改革総合支援事業タイプ2「特色を発揮し、地域の発展を支える大学づくり」事業に関して、本学の地域連携センターおよび産学連携センターを通して、包括協定を締結している岡山市教育委員会、山陽新聞社、早島町、こくさいこどもフォーラム岡山（Interkids）と有機的な連携支援を継続する。地域のニーズを把握し、地域課題解決の取組みを行い、地域に貢献する。また、みのる産業（岡山）、第一化成（京都）との食品開発にかかわる連携についても、成果を得るように努める。

◆生涯学習の推進プラン

○生涯学習センター（NDSU Continuing Education Center）による講座〔対象：学生、一般〕

- ①特別講演
- ②聖書講座（聖書の人間観）

- ②体力作りや姿勢をよくし集中力につなげるというねらいで工夫する
- 教職員の指導力の向上と将来に続く人材と組織の育成
 - ①「教師の教え方」から、「児童の学びの事実」に視点を転換して、授業研究を行い、共有化できるものを探る
 - ②情報共有・相互理解のための場を拡充する
 - ・学力の現状や進路状況などの情報交換の場を持つ
 - ・教務会・学年会・専科会・国際コース担当者会などの持ち方を工夫する
 - ・「指導の手引」の充実・更新・点検を行う
 - ③多忙感や消耗感を充実感に変えられる重点化を検討する
 - ・選択と集中の舵取りを行う
 - ・「なんとなく残しているもの」を点検し「しなければならない仕事」の時間に転換していく
 - ・意志決定や判断につなげる会議のシステムを改善する
- 発展につながる変化への対応
 - ①働いている保護者も安心して通学させられる仕組みづくりを検討する
 - ・放課後活動の充実策・安全な登下校に関わる工夫
 - ②英語教育やイメージ教育に関する広報活動を充実させる
 - ・英語塾や幼稚園対象の国際コース説明会の持ち方を工夫する
 - ・英語教育への理解を深める場に外部の方を案内する(国際コース保護者会の講演等)
 - ③保護者の信頼を得る生徒指導力向上の体制づくりを進める
 - ・本校のよさとして大切にしてきた「めんどろみのよさやあたたかさ」を感じていただけるような日々の関わりを改めて意識して取り組みを進める
 - ・トラブルがあった時の状況把握や解決の仕方など、時代と共に変わってきている児童や保護者の現状に対応するための研修を実施する

ノートルダム清心女子大学附属幼稚園

◆研究・教育の重点目標

- 「心の教育」の推進
 - ①愛されていると感じる心 ②友達を大切にする心 ③困難を乗り越える心
- モンテッソーリ教育の更なる充実
 - モンテッソーリ教育を基盤とした発展的展開・・・基礎の上に成り立つ創造的な遊び
- 子育て支援の強化
 - 預かり保育の充実、就園前保育のあり方の見直し

◆事業計画

- ①宗教研修・・・理念・宗教研修、教職員黙想会、聖書通読

- ②園内外研修・・・研究保育、モンテッソーリ教育に基づく補助教材設定、研修会
- ③保護者の参観日と研修・・・参観日と講演会、モンテッソーリ子どもの部屋参観日、聖書を読む会、父親対象聖書研究会
- ④保護者辺の教育理念啓蒙・・・園だより、宗教通信、モンテッソーリ通信
- ⑤その他・・・就園前保育、預かり保育、夏期休業中の保育(モンテカミングデー、園庭開放)

◆施設設備の整備計画

- ・共用廊下屋根防水他整備

清心中学校・清心女子高等学校

◆研究・教育の重点目標並びに達成のための事業計画

○ノートルダム清心学園の教育の特色の再確認と浸透

- ・「ノートルダム教育部」の新設により、まず本校の教育について教職員の再確認を図り、生徒と共に学校生活の中で教育の特色を実感できるものとするを旨とする
- ・教員研修の実施、国内外姉妹校との交流
- ・「しるべ」に基づく清心ルティーンの回復
- ・福祉施設等との連携によるサービス・ラーニングの継承・発展

○教職員の一体感形成と諸教育活動の統合

- ・課題の共有と活動方針・計画の実施徹底
- ・寄宿舎教育の向上と学校教育との連携
- ・職員会議の充実

○教科指導力の向上と進路保障

- ・各生徒の入学時を出発点とする学力の伸長をめざす指導
- ・生徒の適性・能力に応じた進路実現に向けての細やかな指導
- ・研究授業と相互評価の発展的継続
- ・NDSU クラスを中心とする高大連携の推進
- ・アフターシックス、寄宿舎での学習指導の継続

○SSH 及び SGHa 事業の推進と成果の共有

- ・「研究開発部」の新設により2事業を中心として教育方法の研究を推進し、理系育成・グローバル教育・アクティブラーニング実践・情報教育による教育向上に貢献する
- ・英語4技能の指導充実と CLIL の開発
- ・短期及び長期留学対象校として ND 姉妹校と交換プログラム設定など、ノートルダム教育ネットワークの活用
- ・課題研究の継続発展と普及
- ・ICT の推進
- ・短期・長期の留学生の積極的受け入れ

○ノートルダム・ファミリーの再結成

- ・同窓会の集まり・行事への積極的参加と連携
- ・後援会の活性化
- ・ノートルダム教育ネットワークへの参加と交流
- ・教職員の意識養成

○生徒指導の充実・定員を満たす生徒募集

- ・生徒指導部と保健部を合体して「生徒部」とし、生徒の心身の健全な育成を図る
- ・生徒会・部活動の活性化による生徒の自主的活動の育成
- ・教育相談係による心のケアの充実
- ・入試委員会を再編成し、問題作成の方針から選考と発表業務まで、一貫して責任を持って企画運営する
- ・広報部を「入試広報部」とし入試委員会のもとで広報活動に当たる
- ・HPの一新と英語版作成の準備 ・校外入試会場の検討 ・学校推薦制度の充実

◆施設設備の整備計画

- ・普通教室棟及び図書館空調設備改修工事

ノートルダム清心中・高等学校

◆研究・教育の重点目標並びに達成のための事業計画

- カトリック学校として、建学の精神をすべての教育活動の基本に置き、全人教育を目指した教育活動の充実に努める。(清心らしさの追求)
- 教育という責任ある仕事に関わる意味を、自己の生き方、日々の教育活動を通して学び、責任感、使命感を持って教育活動に取り組む。
- 日々の教育活動において、自己の課題を把握し課題に向き合い、課題解決に向けて謙虚に学び合える拓かれた職員集団になれるように努める。(教師の資質向上)
- 学ぶことを通して生きることを問い、社会の価値観に左右されない、人としてより良い生き方を模索できる生徒の育成に努める。(人間力、心の育成)
- 一人ひとりの生徒たちが持っている個性・可能性を、しっかり引き出していけるような教育活動を充実させる。(進路保障の充実)
- 社会情勢、教育情勢が大きく変遷している現状の中で、将来に対応できる本校教育のあり方を研究する。(将来への展望)
 - ・新大学入試制度の情報収集と研究を行い、確実に対応できるようにしていく。
 - ・グローバル教育、アクティブラーニング、ICT教育についての情報収集と研究
- ①カトリック学校としての使命、責任を教職員全員が自覚できるような研修活動
 - ・講演会、研修会、聖書研究会など ・職員会議における聖書朗読、分かち合い
 - ・将来計画委員会での将来に向けての課題検討(講堂建設委員会、学力向上委員会、行事検討委員会等設置)

②入学してくる生徒の実態、気質、レベルが確実に変化している現状の中で、教師は専門職として、自己の知識、技能を磨き、生徒たちに学ぶ喜び充実感を与えられる関わりが持てるように努力する

③専門職としての高度な技術の習得に努める

- ・ 生徒指導、学級経営などの実践的な指導力育成
- ・ 教科指導に関する専門的知識、指導力育成

④学校を紹介できる機会、及び生徒たちの活動を見てもらえる機会を積極的に設ける。

※①～④について計画－実行－反省－再検討 というサイクルを実施し、より良い教育活動が行われるように取り組む。

◆施設設備の整備計画

・ 講堂等建設工事関係

敷地整備設計及び開発許可申請業務委託、施工管理等業務委託、
 確定測量業務委託、クラブハウス解体に伴う仮設プレハブ設置工事、
 水路付け替え等工事、工事支障に伴う広島市水道管移設工事、追加造成工事、
 講堂等建築工事（建築関係の着手払・中間払）

・ ウィンドウズサーバーの更新

・ 給与計算に関する新システムの導入

・ 空調機器（エアコン）の点検業務委託

・ 高校校舎教室入口扉表装工事

平成 28 年度予算

◇ 概 要

資金収支予算は総額 7,598 百万円で、前年度当初予算と比較した場合 619 百万円(8.9%)増の予算規模となった。

事業活動収支予算では、収入は 4,673 百万円で対前年度当初予算比 254 百万円(5.7%)増となり、支出は 4,738 百万円で、対前年度当初予算比 148 百万円(3.2%)増の予算規模となった。

◇ 資金収支予算書

【収入の部】

学生生徒等納付金収入

入学金収入は大学が前年度の手続者が多かったこともあり、学園全体では 174 名減の 1,436 名分を計上した。それに伴い授業料収入や施設設備資金収入も少なく見込み、3,269,315 千円を計上した。

手数料収入

平成 29 年度入学志願者数を前年度並みで計上し、証明手数料、試験料、大学入試センター試験実施手数料と合わせて 80,403 千円を計上した。

寄付金収入

特別寄付金は前年度の大学教授の奨学寄付金の受入、卒業生からの寄付分を減額し計上、一般寄付金は前年度の幼稚園母の会からの創立 50 周年に対する寄付分を減額し、全体で寄付金は 31,906 千円を計上した。

補助金収入

国庫補助金収入 257,544 千円

地方公共団体補助金収入 703,172 千円

倉敷高 144,753 千円、倉敷中 87,693 千円、広島高 196,660 千円、

広島中 142,650 千円、附属小 77,122 千円、附属幼 54,100 千円、大学 194 千円

付随事業・収益事業収入

補助活動事業収入は高校以下の用品販売やスクールバス、寄宿舍や幼稚園の預かり保育等の収支を相殺し、前年度と同額の 29,400 千円を計上した。他に大学の児童臨床研究所の相談料収入である附属事業収入、公開講座事業収入(生涯学習センター開講講座)と免許状更新講習料収入、倉敷高の高校就学支援金事務委託料の受託事業収入を計上した。

受取利息・配当金収入

第 3 号基本金引当特定資産運用収入に 519 千円を計上、その他の受取利息・配当金収入は前年度より 7,507 千円の減額を見込み、6,131 千円を計上した。

雑収入

退職金財団交付金収入は退職予定者 15 名分で、前年度より 80,777 千円増の交付金予定額を計上した。研究関連収入は、大学の科研費間接経費受入額が未定のため計上していない。その他の雑収入は前年度の大学コンソーシアム職員人件費分、幼稚園 50 周年記念関係分を本年度は減額した。

借入金等収入

広島中高が講堂等建築資金として、市中銀行より借入予定額を計上した。

前受金収入

授業料前受金は大学が 493 名分を計上した。入学金前受金は学園全体で 1,405 名分を計上、施設設備資金前受金は大学 498 名、小学校 67 名、幼稚園 84 名分を計上している。

その他の収入

退職給与引当特定資産は法人事務局 1,000 千円、減価償却引当特定資産は倉敷高が 120,000 千円、広島中・高が 450,000 千円を取崩、建築資金引当特定資産は広島中の 30,000 千円の取崩を計上した。

当年度資金収入合計	5,887,131 千円	(前年度比 3.3%増)
前年度繰越支払資金	1,710,970 千円	(前年度比 18.6%減)
収入の部合計	7,598,101 千円	(前年度比 2.6%減)

【支出の部】

人件費支出

常勤教職員数の増加、3 名の育児休業復職等もあり増額計上、及び退職予定者 15 名の退職金を計上した。

教育研究経費支出（各学校園の教育部門の経費）

消耗備品費支出 大 学 ラーニング・commons関係備品 他

消耗図書費支出

大 学 電子的資料の勘定科目を報酬・委託・手数料支出へ科目変更することによる減額

修繕費支出

大 学 ND ホール本館の外壁改修塗装工事、一宮校地プール改修整備工事他

倉敷中 吸収式冷温水機修理他

小学校 昇降機、空調設備・印刷機保守料他

幼稚園 共用廊下屋根防水他整備

報酬・委託・手数料支出

大 学 電子的資料の勘定科目を消耗図書費から変更

各学校園 講師謝礼、清掃・警備委託、樹木管理委託、校医報酬 他

管理経費支出（各学校園の管理部門の経費）

消耗品費支出 大 学 資料編纂室の展示室設置関係

修繕費支出 大 学 資料編纂室の展示室設置関係

広告費支出 大 学 入試広報業務の充実

報酬・委託・手数料支出

大 学 自己点検・評価手数料

広島中 前年度の水路付け替え工事・焼却炉撤去の工事分の減

借入金等返済支出 広島中高 借入金の返済

施設関係支出

建物支出・構築物支出

大 学 資料編纂室の展示室設置工事、マルチメディア未整備室のマルチメディア化工事

倉敷高 高校普通教室棟 GHP の取替

建設仮勘定支出 大 学 テレジア館改築・書庫棟増築等工事完成時の支出
広島中高 講堂等建設工事関係

設備関係支出

大 学 附属図書館、ラーニング・コモンズ設置関係、附属図書館のパソコン更新、マルチメディア未整備教室のマルチメディア化工事、資料編纂室の展示室設置他

倉敷高 記念館サイド暗幕の取替他

広島中高 給与計算システム、マークシートリーダーソフト 他

小学校 視聴覚機器・楽器・レーザープリンター他

資産運用支出

減価償却引当特定資産繰入支出 160,000 千円

（大 学 100,000 千円、 広島中 60,000 千円）

第3号基本金特定資産繰入支出 大 学 10,000 千円

建築資金引当特定資産繰入支出 倉敷高 5,000 千円

当年度資金支出合計 5,978,348 千円（前年度比 1.8%減）

翌年度繰越支払資金 1,619,753 千円（前年度比 5.3%減）

支出の部合計 7,598,101 千円（前年度比 2.6%減）

◆事業活動収支予算書

【教育活動収支】

事業活動収入の部

寄付金は特別寄付金 14,642 千円と一般寄付金 1,212 千円、大学・倉敷高が図書等の現物寄付 1,800 千円を計上した。また、雑収入では退職給与引当金戻入額に広

島中 10,421 千円を計上した。その結果教育活動収入計は 4,649,668 千円となった。

事業活動支出の部

人件費では退職金に 99,783 千円、退職給与引当金繰入額に 157,161 千円を計上した。また、教育研究経費の減価償却額に 407,268 千円と管理経費の減価償却額 52,535 千円を計上した。その結果、教育活動支出計は 4,700,736 千円となった。

教育活動収支差額

教育活動事業での収支のバランスをみる教育活動収支差額は 51,068 千円支出超過となった。

【教育活動外収支】

事業活動収入の部

受取利息・配当金は、第 3 号基本金引当特定資産運用収入 519 千円とその他の受取利息・配当金 6,131 千円を計上した。

教育活動外収支差額

教育活動外支出に借入金利息 1,284 千円を計上し、教育活動外収支差額は 5,366 千円の収入超過となった。

経常収支差額

教育活動収支と教育活動外収支を合わせた経常的な収支バランスは、45,702 千円の支出超過となった。

【特別収支】

事業活動収入の部

施設設備寄付金として、倉敷中高の 6,140 千円、広島中高が講堂等建設事業に 9,912 千円をそれぞれ計上した。

事業活動支出の部

図書処分差額に大学 10,000 千円、倉敷高 600 千円、広島中高 4,000 千円の合計 14,600 千円を計上した。

臨時的な収支のバランスをみる特別収支差額は 1,569 千円の収入超過となった。

基本金組入前当年度収支差額

当年度の収支バランスの表示となるもの(従来 of 帰属収支差額)で、65,283 千円の支出超過となった。

基本金組入額合計 1,124,212 千円

大 学 170,000 千円、 倉敷高 16,902 千円、 倉敷中 12,239 千円、
 広島高 460,980 千円、 広島中 460,980 千円、 小学校 2,111 千円、
 幼稚園 1,000 千円

当年度収支差額 前年度比 127,526 千円支出増の 1,189,495 千円の支出超過となった。

翌年度繰越収支差額 支出超過となった当年度収支差額に前年度繰越収支差額を加算した結果、2,145,614 千円の支出超過となった。